際、自分がわがままを言えば言うほど、同級生は離れていく一方だったそうです。そんなある時、同級生たちを振り向かせようと、あることを思いつきますが、それが原因で「バイキン」とあだ名を付けられ、いじめの標的となってしまいます。

待っていた壮絶な「いじめ」。母の死をきっかけに自分の心も追いつめることに

「当時は、『いじめる方も悪いが、いじめられる方も悪い』という考え方があった。先生にお前にも原因があると言われショックだった」と小学校時代を振り返ります。

そんな彼女を最大の悲しみが襲います。「その日は誕生日で、毎年家族みんなで祝ってくれたのですが、母の具合が悪く祝ってもらえなかったんです。そんな母に向かって〝大嫌い〟と言ってしまいました」。その瞬間、後悔するも謝ることができなかったぽんぽ娘さん。母はその後緊急入院し、一週間後に息を引き取ったそうです。

ぽんぽ娘さんは、「わがままを言ったせいで、母が死んでしまった。またわがままや迷惑を掛けたら家族を不幸にしてしまう」と考え、「絶対、学校でのことは誰にも言わないようにしよう」と決心します。

そんな中、学校でのいじめはエスカレートしていきます。特に、集団でのいじめは〝殺されるかも〟と恐怖を感じるほどに。

「学校に行きたくないけど、家族には心配をかけられない」「クラスでいじめを訴えても誰も信じてくれない」。そんな極限の状況に追い込まれ、あるとき自殺を試みます。

ぽんぽ娘さんは、当時の心境を振り返り、「〝そうなる前になぜ相談できなかったのか〟とよく言いますが、子どもは視野が狭い。〝死ぬ〟ことしか選択肢がなくなってしまうのです」と訴えました。

「お笑い」との出会いが彼女に生きる希望を与えた

生きる希望を失った夜に出会ったのは、「お笑いの世界」でした。それが彼女に生きる力を与えることになります。

「吉本新喜劇に登場する芸人は、みんなに迷惑をかけているのに愛される存在。そんな世界があるんだ」と、〝お笑い〟への興味をきっかけに、〝死ぬ〟ことを考えなくなったといいます。それから、「自殺を思いとどまらせてくれた世界に私も立ちたい」「芸人になって、私のように苦しんでいる人を救う存在になりたい」と決意。お笑い芸人、そして落語家への道を歩むことになります。

「いじる」はいつか「いじめ」になる。子どもの価値観を変えるためにできること

壮絶ないじめを乗り越え、〝お笑い〟の世界を知り、生きる希望を取り戻したぽんぽ娘さん。最後に、子どもたちが芸人のまねをして簡単に〝いじる〟状況に警鐘を鳴らしました。

「〝いじる〟はエスカレートすると、それは立派な〝いじめ〟です。子どもはすぐに思いつめてしまうものですが、価値観はいくらでも変えられる」とぽんぽ娘さん。「〝いじる＝いじめ〟になるということを、大人が子どもに植え付けていけば、少なくとも今よりはいじめの数は減らせるはずです。一緒に頑張っていきましょう」と会場へメッセージを送り、講演を締めくくりました。

▼人権作文発表および人権啓発ビデオ視聴

講演会の後には、「お互いを大切にした暮らしやすい地域社会の実現を目指して～思いやりの心を育てよう～」を研究主題に、人権作文の発表と人権啓発ビデオの視聴が行われました。

相手のことを考えることで伝わることがたくさんある

日野中学校の砂流大輝さん（2年）と坂本瑞季さん（3年）が人権作文を発表しました。

砂流さんは、「中学生になって気がついたこと」と題し、思いやりの心を持ち意見を言うことの大切さを伝えました。

自分の意見を主張しすぎてケンカになってしまったことや、野球部でのチームメイトとのエピソードを通し、相手に自分の気持ちを伝えるときの言い方が重要だと気付きます。

「普段の生活でも、どのように伝えたら自分の考えが相手に分かってもらえるのか、相手が言っていることは何かを考えてみることが大切だと思うようになりました」「これからも人が意見を言ってきたら、自分と違う意見であってもすぐに反論をせずに、まず相手の意見を聞いてそれから話し合いたいと思います」と砂流さん。自分と気の合う人や仲の良い人とだけ付き合うのではなく、相手を思いやり多くの人と接することで、より楽しい人生が送れるようになると発表しました。

砂流大輝さん（日野中2年）

変わらぬ命の尊厳
今、私たちにできること

続いて、坂本さんは、「命の尊さ」と題し、長崎への原爆投下から感じた命の大切さと物事の本質をとらえることの重要性を伝えました。

71回目の「長崎の鐘」が鳴る平和祈念式典の様子をテレビで見ていた坂本さん。長崎出身の母親が小学生のころ出会った被爆者との話を聞きます。大きなやけどのあとや足が不自由な様子を見て、それが原爆のせいだと分からず、「怖い」と感じてしまった当時の母。そして、何も知らないまま、ただ「怖い」と感じていたことを申し訳なく思っていると坂本さんに話しました。

坂本さん自身も被爆者の写真を見た時、「怖い」と感じてしまったそうですが、見た目ではなく相手のことを考えた時、自分の気持ちをそのままにしておくことは、差別と変わらず失礼なことと気付きます。そして、「原爆のことや、相手の気持ちなど、物事の本質を知らなくてはいけない」と訴えました。

「原爆投下から71年たっても、心の傷は一生消えない。命が何よりも大切にされる世の中であってほしい」「戦争は、その尊い命が奪われるので、もう二度と起きてほしくない」。平和への願いを一層強くした坂本さんは、「平和のために祈るだけではなく、さまざまなことに対し、物事の本質をとらえて、考えていきたい」と話し、「まず、新聞やニュースを見て、世の中の動きを知ることから始めたい」と決意を語りました。

▼各学校の取り組み

【根雨小学校】

今年度はこんなところを頑張っています。

●あいさつ運動

「おはようございます！」
元気よくあいさつの輪を広げる

人とのつながりをつくる基本のあいさつについては、今年度、児童が中心になって毎朝玄関であいさつ運動を行っています。また、福祉委員会の児童が「あいさつの歌」を作り、放送で流しながら意識して取り組んでいます。

そのおかげであいさつをする児童が増えたり、大きな声でしっかりできたりと成果は出てきています。しかしながら、このように決められた時、場所ではできても、学校に来られたお客様に対して、あるいは校外に出た時などは課題もまだ多くあります。さらに工夫していきたいと考えます。

●縦割り活動

週2回の縦割り掃除をはじめ、運動会、縦割り遊びを外でするなど全校で仲間意識を育てています。

●学力の向上

今年度の研究主題を『『主体的に学習に取り組み、関わり合いながら思考を深める子どもの育成』～アクティブラーニングと、それを支える学習意欲の向上を目指した授業づくり～」とし、学習意欲のもととなる自己効力を高めながら取り組んでいます。その中で自分の考えや根拠を明らかにしたり、ICT機器を有効に使いながら、仲間とともに高まり合えるよう頑張ります。

●PTA同和教育推進部の活動

同和教育推進部では、10月29日、PTA会員や児童による交流会を開きました。今年度はゆで卵の殻に絵を描く「エッグアート」に取り組みました。とてもユニークな作品が出来上がりました。後半は、転がしドッジボールをして楽しみました。

個性的なエッグアートが大集合！

今年度の人権教育参観日を2月に行う予定です。会員研修では参加型の研修を行う予定です。多くの皆さんに参加していただき身近なところからみんながさらにつながりたいと思います。

【黒坂小学校】

本校では、小規模校であることを生かし、縦割り班活動や全校児童活動、日野高校など校外のさまざまな人との交流を行っています。それらを通して、自分や友達の良さを発見し、認め合い励まし合う仲間づくりを進め、人権感覚を高めていきたいと考えています。

●人権教育参観日

10月に人権教育参観日を開催しました。各学級の授業公開後、全体会、講演会、学級懇談を行いました。

講演会では、「子どもと人権」というテーマで本校職員の川端孝子が講演しました。また、学級懇談では、子どもたちが自尊感情を高め、支え合う仲間になれるよう話し合いました。

●「人権の花」運動

心にもきれいな花を咲かせよう

法務局から寄贈された「人権の花」を植え育てています。夏には、日野町公民館と黒坂警察署に運び、